



2022年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月14日

上場会社名 株式会社プレナス

上場取引所 東

コード番号 9945

URL <https://www.plenus.co.jp/>

代表者（役職名）代表取締役社長 社長執行役員

（氏名）塩井 辰男

問合せ先責任者（役職名）経理本部 IR室長

（氏名）藤波 俊行 TEL 03(6892)0304

四半期報告書提出予定日 2022年1月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2022年2月期第3四半期の連結業績（2021年3月1日～2021年11月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	106,994	1.9	3,239	—	6,305	856.7	3,456	—
2021年2月期第3四半期	105,019	△6.9	186	11.2	659	7.1	△931	—

（注）包括利益 2022年2月期第3四半期 3,630百万円（—%） 2021年2月期第3四半期 △825百万円（—%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	90.09	89.76
2021年2月期第3四半期	△24.31	—

（注）2021年2月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年2月期第3四半期	83,316	53,219	62.7
2021年2月期	80,389	51,867	63.4

（参考）自己資本 2022年2月期第3四半期 52,233百万円 2021年2月期 51,001百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2022年2月期	—	30.00	—	—	—
2022年2月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年2月期の連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	145,230	3.4	5,400	498.1	6,040	196.4	2,510	—	65.45

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 (注)詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3)四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年2月期3Q	44,392,680株	2021年2月期	44,392,680株
② 期末自己株式数	2022年2月期3Q	6,012,874株	2021年2月期	6,041,555株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年2月期3Q	38,370,748株	2021年2月期3Q	38,343,866株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

※ 四半期決算補足説明資料の入手方法について

- ・四半期決算補足説明資料は、2022年1月17日(月)に当社ホームページのIR情報に掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する説明	P. 2
(2) 連結財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	P. 8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	P. 9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 10
(継続企業の前提に関する注記)	P. 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	P. 10
(追加情報)	P. 10
(セグメント情報等)	P. 11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に加え、原油価格の高騰や商品価格の上昇が個人消費に影響を与えるなど、国内における消費活動は依然として厳しい状況にあります。

当フードサービス産業におきましては、国内における緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の解除やワクチン接種の進行により改善の兆しが見られつつあるものの、新たな変異株が出現するなど依然として先行きが不透明な状況にあります。また、中食産業におきましては、消費者のライフスタイルの変化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響によるテイクアウトやデリバリー需要の増加によって堅調に推移する一方、外食企業や飲食店のテイクアウト参入など業態の垣根を越えた競争が激化しております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、お客様の満足度向上に努めるべく、既存ブランドの成長による更なる事業基盤の強化と、お客様や従業員の安全を考慮した店舗運営に注力しました。既存ブランドの成長につきましては、当社グループ工場で製造した商材を活用したキャンペーン展開や業態別にターゲットを明確にした販売戦略、スマホアプリ等を活用したデジタルマーケティングやデリバリーサービス導入店舗の拡大等によって店頭売上の拡大に取り組むとともに、引き続きFC化の推進に注力しました。

また、ほっともっとでは引き続きネット注文やデリバリーサービス、キャッシュレス決済の強化など非接触型へのオペレーションの改善を進めました。やよい軒ではテイクアウト需要や朝食需要の拡大により、お客様の幅広いニーズへの対応を図りました。

国内の当第3四半期連結累計期間の既存店売上高につきましては、ほっともっとは5.0%増と好調に推移しました。しかしながら、やよい軒やMKレストランは一部地域での外出自粛要請や営業時間短縮要請の影響を受けたことで、やよい軒は3.0%減、MKレストランは23.0%減と引き続き厳しい事業環境が続きました。

[国内における既存店売上高の前年同期比]

	第1四半期 連結会計期間 (3～5月)	第2四半期 連結会計期間 (6～8月)	当第3四半期 連結会計期間 (9～11月)	当第3四半期 連結累計期間 (3～11月)
ほっともっと	106.6%	104.5%	103.9%	105.0%
やよい軒	113.7%	93.1%	88.4%	97.0%
MKレストラン	100.1%	67.9%	75.3%	77.0%

また、海外につきましては、一部の国や地域によっては政府の要請によりテイクアウトやデリバリーのみの営業や、時間短縮や座席数限定の営業といった制約を受けるなど、厳しい事業環境が続きました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,069億94百万円（前年同期比1.9%増）、営業利益は32億39百万円（前年同期は、営業利益1億86百万円）、経常利益は63億5百万円（前年同期比856.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は34億56百万円（前年同期は、親会社株主に帰属する四半期純損失9億31百万円）となりました。

売上高につきましては、やよい軒やMKレストランの既存店売上高が前年同期実績を下回ったことやほっともっと直営店の加盟店への移管による売上高の減少があったものの、ほっともっとの既存店売上高が前年同期実績を上回ったことにより前年同期実績を上回りました。利益面につきましては、ほっともっとの既存店売上高の増加や内製化の推進等による粗利改善により前年同期実績を上回りました。

なお、経常利益につきましては、主に営業外収益に各自治体からの営業時間短縮に係る感染拡大防止協力金や雇用調整助成金を助成金収入として25億3百万円計上したことによるものです。

[国内における店舗展開の状況]

	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第3四半期 連結会計期間末	改装・移転
ほっともっと	2,493店	4店	9店	2,488店	6店
やよい軒	372店	1店	—	373店	—
MKレストラン	26店	—	1店	25店	—
合計	2,891店	5店	10店	2,886店	6店

[海外における店舗展開の状況]

	展開エリア	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第3四半期 連結会計期間末
ほっともっと	中国	2店	—	1店	1店
	韓国	11店	1店	5店	7店
	シンガポール	1店	—	1店	—
やよい軒	タイ	194店	4店	8店	190店
	シンガポール	9店	1店	1店	9店
	オーストラリア	6店	—	—	6店
	台湾	21店	1店	1店	21店
	アメリカ	4店	—	1店	3店
	フィリピン	6店	1店	—	7店
	マレーシア	4店	—	—	4店
	中国	—	1店	—	1店
合計	—	258店	9店	18店	249店

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

【ほっともっと事業】

持ち帰り弁当のトップブランドとして、安心・安全な品質管理体制のもと、おいしいごはんにこだわり、厳選した高品質の国産米を使用し、店内調理によるできたてのお弁当を提供することを基本に、当社グループ工場の活用を推進するなど、付加価値の高い商品の提供によってお客様満足度の向上を目指しました。

また、若年層、ファミリー層をターゲットとした商品の販売による新しい顧客層の獲得施策やお客様参加型の販促キャンペーン展開による継続的な来店への促進に加え、引き続きネット注文やデリバリーサービス、キャッシュレス決済の強化など非接触型へのオペレーションの改善を進めました。

さらに、フランチャイズ展開につきましては、「ユニットFC制度」を利用して、引き続き新規オーナーの獲得及び既存オーナーの多店舗化に積極的に取り組みました。

以上の結果、売上高は796億66百万円（前年同期比2.1%増）、営業利益55億4百万円（前年同期比87.4%増）となりました。売上高につきましては、直営店の加盟店への移管による売上高の減少があったものの、既存店売上高が増加（前年同期比5.0%増）したことにより前年同期実績を上回りました。利益面につきましては、既存店売上高の増加や粗利改善により前年同期実績を上回りました。

【やよい軒事業】

素材や手作り感にこだわった定食メニューをお手頃な価格で提供することを基本に、従来のヘビーユーザー向け商品施策に加え、朝食メニューの充実や販売実施店舗の拡大による朝食需要の拡大や、お客様がご自宅等でも店舗と同じように定食をお召し上がりいただけるよう、ごはん・汁物・おかずを別々の容器で提供する『おうち定食』の販売と継続的なキャンペーンの実施によるテイクアウト需要の拡大により、引き続きお客様の幅広いニーズへの対応を図りました。

以上の結果、売上高は186億61百万円（前年同期比0.9%増）、営業損失は17億40百万円（前年同期は、営業損失20億34百万円）となりました。売上高につきましては、既存店売上高が減少（前年同期比3.0%減）したものの、加盟店の直営店への移管によって売上高が増加したことで前年同期実績を上回りました。利益面につきましては、粗利改善により前年同期実績から赤字幅が縮小しました。

【MKレストラン事業】

豊富な具材と個性豊かなスープが選べるしゃぶしゃぶに、『岩下の新生姜 鍋スープ』や『岩下の新生姜 小籠包』など期間限定の鍋スープや特選具材、飲茶を取り揃え商品力を強化しました。また、ファミリー層をターゲットとした販促施策の定期的な実施により、お客様の来店促進に努めました。さらに、テイクアウトメニューやデリバリーサービスの拡大により、お客様の幅広いニーズへの対応を図りました。

以上の結果、売上高は13億74百万円（前年同期比17.4%減）、営業損失は2億55百万円（前年同期は、営業損失2億65百万円）となりました。売上高につきましては、既存店売上高の減少（前年同期比23.0%減）や前年に実施した不採算店舗の退店により前年同期実績を下回りました。利益面につきましては、前年に実施した不採算店舗の退店により前年同期実績から赤字幅が縮小しました。

【海外事業】

海外事業につきましては、マーケットに応じた売上向上施策や食材の現地化による店舗原価低減等により既存店の収益力を強化し、事業の黒字化を目指しました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、一部の国や地域によっては政府の要請によりテイクアウトやデリバリーのための営業や、時間短縮や座席数限定の営業といった制約を受けるなど、厳しい事業環境が続きました。

以上の結果、売上高は20億7百万円（前年同期比3.9%減）、営業損失は6億14百万円（前年同期は、営業損失6億3百万円）となりました。

【その他】

㈱エムエスエフは、調味料・加工食品のOEM（相手先ブランド名製造）を主な事業としており、既存取引先への新商品提案を積極的に行うとともに、新規取引先獲得のための営業活動を実施しました。また、当社グループ店舗で使用している調味料等の開発も行っており、商品数の拡大にも注力しました。

以上の結果、売上高は52億84百万円（前年同期比10.9%増）となりました。利益面につきましては、のれんの償却があったものの、生産量が増加したことによって営業利益は3億85百万円（前年同期比77.2%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ29億26百万円増加し、833億16百万円となりました。内訳は、流動資産62億73百万円の増加、固定資産33億46百万円の減少であります。流動資産の増加は、現金及び預金38億42百万円の増加、商品及び製品15億41百万円の増加などによるものです。また、固定資産の減少は、有形固定資産27億69百万円の減少などによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ15億75百万円増加し、300億97百万円となりました。内訳は、流動負債20億28百万円の増加、固定負債4億53百万円の減少であります。流動負債の増加は、支払手形及び買掛金12億17百万円の増加、未払法人税等9億9百万円の増加などによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ13億51百万円増加し、532億19百万円となりました。主な内訳は、利益剰余金11億54百万円の増加、自己株式55百万円の減少によるものです。利益剰余金の増加は、親会社株主に帰属する四半期純利益34億56百万円の計上、配当支払による23億1百万円の減少などによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期の通期の業績予想につきましては、2021年4月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

(新型コロナウイルス感染症に関するリスク情報)

新型コロナウイルス感染症の全世界における感染拡大の影響により、世界各国で入出国禁止等の渡航制限や外出規制などの措置が行われるだけでなく、国内におきましても緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による営業時間の短縮や外出自粛による来店客数の減少などもあり、当フードサービス産業に重要な影響を与えております。

国内におきましてはワクチン接種が進み改善の兆しが見受けられますが、影響が深刻化、長期化した場合には、店頭売上高の減少に加え、原材料不足や仕入価格高騰等が発生し、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当該リスクへの対応策として、当社グループは、食のインフラ企業として顧客満足を実現するため、保健行政の指針に従った感染防止策の徹底や、各自治体の自粛要請に沿った営業時間の変更等を実施するなど、顧客、取引先及び従業員の安全を考慮した店舗運営を実施しております。また、提出日現在、当社グループ工場の安定稼働や原材料の十分な量の確保、デリバリーサービスの推進、やよい軒事業やMKレストラン事業のテイクアウトの推進等、事業に及ぼす影響の低減を図っております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,519	14,362
受取手形及び売掛金	3,013	3,495
商品及び製品	5,391	6,932
原材料及び貯蔵品	220	297
その他	2,968	3,279
貸倒引当金	△509	△490
流動資産合計	21,603	27,876
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	27,096	25,436
その他(純額)	13,368	12,258
有形固定資産合計	40,464	37,694
無形固定資産		
のれん	714	574
その他	1,214	1,001
無形固定資産合計	1,928	1,575
投資その他の資産		
繰延税金資産	3,704	3,636
その他	12,731	12,563
貸倒引当金	△43	△31
投資その他の資産合計	16,392	16,169
固定資産合計	58,785	55,439
資産合計	80,389	83,316
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,402	6,619
短期借入金	758	759
未払法人税等	959	1,869
賞与引当金	340	286
ポイント引当金	287	241
株主優待引当金	161	42
資産除去債務	6	3
その他	8,595	8,717
流動負債合計	16,511	18,539
固定負債		
長期借入金	1,075	1,037
資産除去債務	7,124	7,160
退職給付に係る負債	110	124
その他	3,701	3,235
固定負債合計	12,011	11,557
負債合計	28,522	30,097

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,461	3,461
資本剰余金	4,714	4,702
利益剰余金	54,608	55,763
自己株式	△11,776	△11,720
株主資本合計	51,008	52,206
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△11	△12
為替換算調整勘定	4	39
その他の包括利益累計額合計	△6	27
新株予約権	223	203
非支配株主持分	641	781
純資産合計	51,867	53,219
負債純資産合計	80,389	83,316

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
売上高	105,019	106,994
売上原価	51,456	51,625
売上総利益	53,563	55,369
販売費及び一般管理費	53,377	52,129
営業利益	186	3,239
営業外収益		
受取利息	18	14
受取配当金	1	1
固定資産賃貸料	102	99
受取補償金	57	—
受取保険金	174	129
持分法による投資利益	9	55
助成金収入	39	2,503
その他	237	339
営業外収益合計	641	3,143
営業外費用		
支払利息	32	43
固定資産賃貸費用	4	3
賃貸借契約解約損	41	6
貸倒引当金繰入額	28	—
その他	62	23
営業外費用合計	168	77
経常利益	659	6,305
特別利益		
固定資産売却益	5	4
特別利益合計	5	4
特別損失		
固定資産処分損	136	39
減損損失	913	244
その他	9	3
特別損失合計	1,059	287
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△395	6,022
法人税等	457	2,425
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△852	3,597
非支配株主に帰属する四半期純利益	79	140
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△931	3,456

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△852	3,597
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	△1
為替換算調整勘定	18	△43
持分法適用会社に対する持分相当額	4	78
その他の包括利益合計	27	33
四半期包括利益	△825	3,630
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△904	3,490
非支配株主に係る四半期包括利益	78	140

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書（追加情報）に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等に関する会計上の見積りに用いた仮定について、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラン 事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	77,997	18,504	1,663	2,089	100,254	4,765	—	105,019
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	1,630	△1,630	—
計	77,997	18,504	1,663	2,089	100,254	6,396	△1,630	105,019
セグメント利益又は損失(△)	2,936	△2,034	△265	△603	32	217	△63	186

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「やよい軒事業」、「MKレストラン事業」及び「海外事業」の各セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間中に退店が決定した等の理由により、回収が見込めなくなった店舗及び損益が継続してマイナスとなる店舗について減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ646百万円、45百万円及び221百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラン 事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	79,666	18,661	1,374	2,007	101,710	5,284	—	106,994
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	2,123	△2,123	—
計	79,666	18,661	1,374	2,007	101,710	7,407	△2,123	106,994
セグメント利益又は損失(△)	5,504	△1,740	△255	△614	2,893	385	△39	3,239

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。